

# 用途を意識し、協力して取り組む木工指導

—— Aグループの場合を中心に ——

## 1 木工（作業学習）の基本的立場

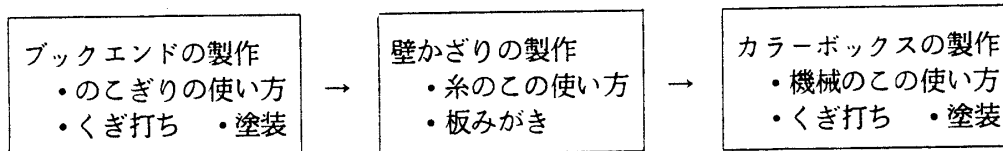
中学部の作業学習は、11名をA・Bの2グループに分け、週計画の中に、農耕・木工・印刷・陶芸・調理・被服の6分野をそれぞれ経験するよう位置づけている。

Aグループ（男子4名・女子2名）をBグループと比較すると、技能的にはすぐれているものの、その内容は極めて幼稚である。態度面も、励まし、援助に常時工夫が必要で、自主的・積極的な取り組みにはほど遠い。

そこで、木工指導では、製作するものを、子どもたちの身近な生活の中から選び、製作過程に製品を意識づけ、製品を使用することで、やる気・意欲を育て、たくましく行動する子（こつこつと取り組む子）をめざした取り組みを基本とし、次のことを配慮した。

- (ア) 教師製作の紙模型・実物見本の提示により作品のイメージづくりの手段とする。
- (イ) 製作段階では、2人組の共同製作とし、助け合い競い合うようにさせた。
- (ウ) のこぎりの使用・くぎ打ち・塗装を学習の中心とした。

## 2 取り入れた題材と技能的なねらい



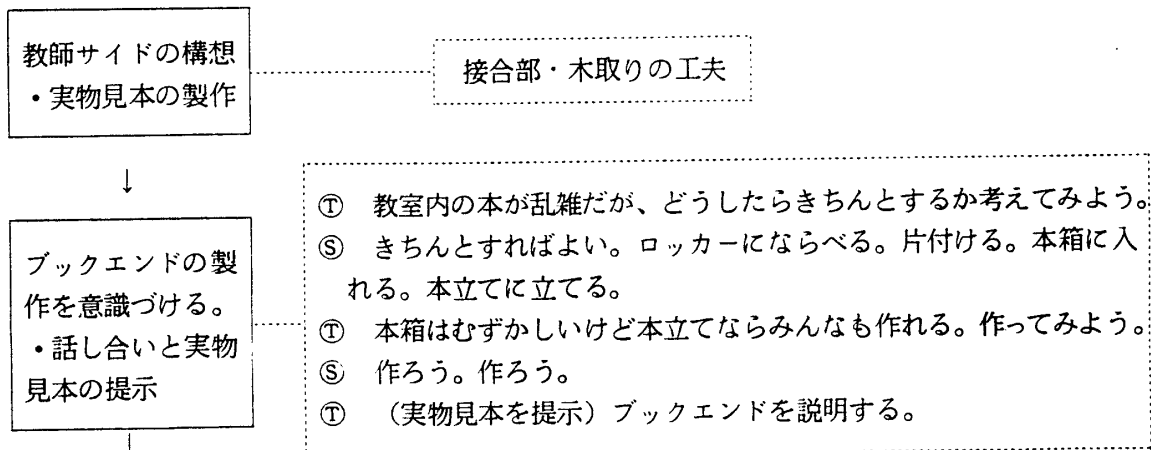
## 3 実践例 — ブックエンドの製作 —

小テーブル（小物置き箱）の製作  
・のこぎりの使用 ・くぎ打 ・塗装

本題材は、教室内の本が乱雑になり、口やか

ましく言ってもなかなか整とんかできない生活実態に着目し、思いついた題材である。

指導経過と生徒の反応を述べてみる。

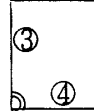


製作の準備をする。(教師サイドの準備)

(ア) 本体の準備



(イ) ささえ板の準備

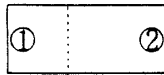


(ウ) 釘・との粉・塗料の準備

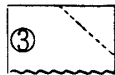
①②の木口を直角に、全体 ③④が90°で交わるよ  
を正確な長方形にしておく。 うにしておく。

製作する

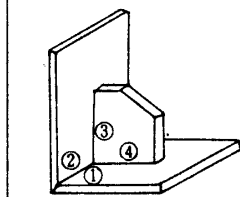
⑦ 本体の加工



⑧ ささえ板の加工



点線を切るように指示する。  
のこぎりは、昨年度より使用していると聞  
いたが、能力の劣るS・T、K・Mの2名に  
は、点線部分にあらかじめ深さ数mmの溝を作  
り、のこぎりを使いやすくした。



組み立て作業  
左図になるように、  
くぎ打ちをして組み  
立てる。

接合部分はすべて教師サイドで準備したこ  
とになるが、  
⑦ 板を切って、くぎを打ち、自分で組み立  
てたという満足感がみえた。  
⑧ 片方の完成のあと、次の片方への取り組  
みに最初と違った意欲がみられた。

塗装をする。

- ・素地みがき
- ・目止め
- ・水性ペイントで塗装

組み立てまでの意欲的な取り組みが、塗装段階であまり  
見られなかった。  
・美しくする、あるいは美しいものへの関心がないのか。  
・美への関心をどう育てるか。

#### 4 問題点と反省

最初に取り組んだブックエンドの製作を終わって、大きな問題点に気付いた。その中でも、

- ⑦ 2人の共同での取り組みが、協力・競合に役立ち意欲的な態度が見られたのに対して、完成した作品に、公共物・個人所有のいずれの関心もなく作品を大切に作る気持ちが育たなかった。
- ⑧ 絵本の種類(重いものが多い)・置き場所(スチール戸棚の上)とブックエンドのつり合いが悪く、使いにくいものを製作してしまった。以上の点から、「生活に生かす」というねらいが達成できず、今後の教師の取り組みを反省させられた。(宍戸 悟)